

昭和三十四年 インドネシア厚生大臣夫人一行四名

昭和三十七年 メキシコ大統領夫人

昭和三十八年 英国ヒューム外相夫人

など海外からの訪問、国内は全国より毎日といっても過言ではないほどの見学者があった。

メキシコ大統領夫人がみえた時は、四ノ橋通りも、歓迎の国旗をたて、町会も歓迎の意を表わした。園では、子どもたちの歌、遊戯などを行い、子どもたちが作った壁かけを贈った。夫人からはメキシコの民族衣裳を着たお人形をたくさんいただいた。

三 区立青山保育園の開設

— 青山簡易保育所の廃止 —

所 在 港区赤坂青山北町五丁目二四番地（現 北青山三丁目四番一四一〇一号）

開 設 昭和三十七年十二月一日

構造・規模 敷地 一八一五・三^m（建設工事費 三、〇五〇万円（都に対する工事委託費））

建物 鉄筋コンクリート造四階建（都営住宅併設）

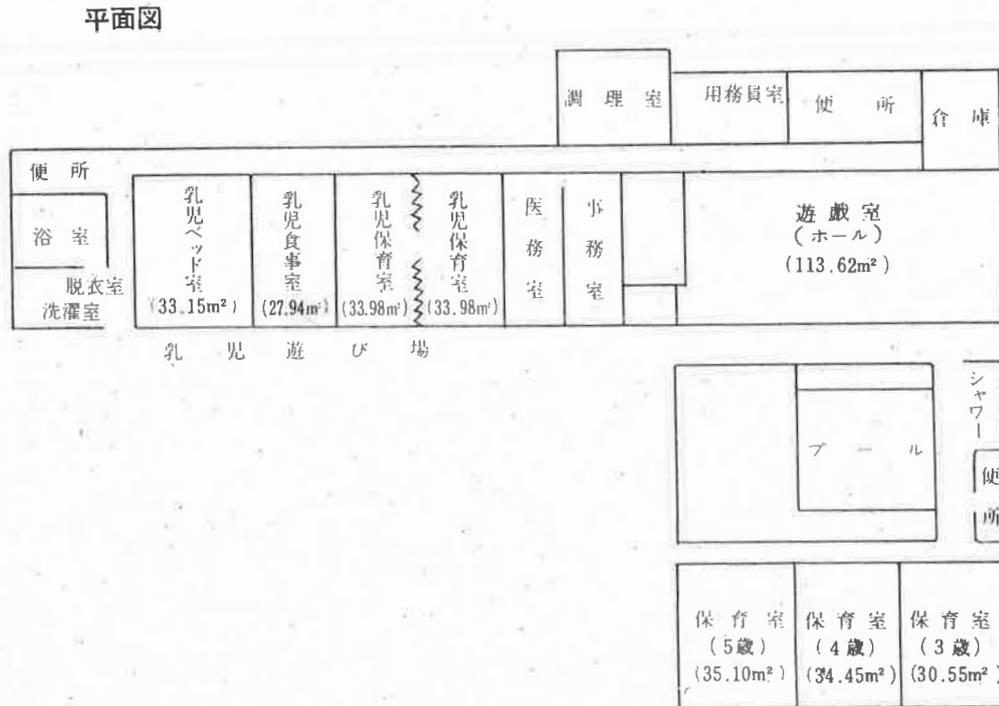
保育園一階部分延六九六・二六^m

開設までの背景

昭和三十年代中ごろ、地価の高騰が激しくなり、赤坂青山北町五丁目（現 北青山三丁目）付近の商店街や住宅は、急速に高層化されていた。保育園の改築されるあたりには兵舎を改造した二階建て住宅が立ち並んでおり、当時の

第2章 保育園の充実に向けて

青山保育園平面図



東京都住宅局により、老朽住宅の改築高層化が進められた。その工事現場の前に青山簡易保育所があった。それは区の出張所跡の建物を利用したもので、土地が狭く、建物も古く、室内も保育園向きにはできていなかった。働く母親の増加により、保育園の必要性は急激に高まり、関係者の

願いは新しい保育園づくりに向けられていったが、青山地区は地価が高く用地取得が難しいので実現はなかなか困難なことであった。このような状況の中で建設中の都営住宅に保育園を併存させるといふ新しいアイデアが生まれたのであった。

都営住宅併設の保育園建設は、初めての取組みであった。その実現のために港区と東京都住宅局との話し合いが何回となくもたれ、その中で騒音などの問題が懸念されたが、港区は、都営住宅においての、こうした施設の必要性を説き、団地内の約六割の子どもたちが入園できるという数値を資料としてまとめ、建設計画を進めた。建設には都住宅局があたったが、保育園部分の建設費は港区が負担することに決められ、実現するはこびとなった。

園内のレイアウトは、園長（赤坂支所民生戸籍課長兼務）と青山簡易保育所の保母が中心になって進められ、昭和三十七年二月に着工し、十一月に完成した。地価急騰の都心部にふさわしいこのアイデアは、その後、都内各地の保育園建設に取り入れられていったが、その先鞭となったのが、この青山保育園の建設であっ